

# 石川県立大学 FDセミナー

～本学における教育評価を考える 第1回目～

## 使えるGPAの運用と教学の内部質保証

日 時： 平成 29 年 7 月 25 日(火)

14:40 ~ 16:10

場 所： 第 2 中講義室 ( K117 )

講 師： 半田智久 先生

(お茶ノ水女子大学 教授 全学教育システム改革推進本部  
教学 I R・教育開発・学修支援センター)

対 象： 教職員全員

GPAは個々の学生にとっては端的に学修成果を計量的かつ可視的にわかりやすく振り返り、学修動機づけの拠り所にしたり、あらたな学修計画を立てていくうえで役立ちます。大学にとってこの指標は教学の内部質保証を担保していくうえでの基幹指標になります。学生の諸属性単位での学修成果の比較、把握、それにもとづく対応、学生に対する学修行動調査や授業アンケート、生活意識調査等の結果とGPAの関連をおさえることで、エビデンスベースでの自己点検・評価を体系化し、自己組織的に内部質保証の仕組みを駆動させていくうえで不可欠な情報となります。

ただし、これらを確実に実現させていくには要件があります。「**使えるGPA**」の運用です。ということは「**使えないGPA**」があるのでしょうか。ともかく右へ倣えてGPAを導入してみたけれど…という話はよく聞く話です。導入したGPAが一般化している「**使えないGPA**」だった、だからそういう話を多く耳にするのかもしれない。なぜそれが一般化しているのか、ただ右に倣ったからだ、悪循環……。

今回のFDでは学生にも教職員にも、そして大学そのものにとっても十分にその効能を発揮させることができる「**使えるGPA (functional GPA)**」の話をしていきます。

参考文献：半田智久 『GPA制度の研究 —functional GPAに向けて』  
大学教育出版 2012.

問い合わせ：小西（内線6111）